

「お花先生」

小学校 4 年生だった時、担任の先生が、こう言いました。「先生という言葉は、先に生まれた、と書きます。だから、先生っていうのは、偉いとか、立派とか、そう言うんじゃないくて、ただ、先に生まれて、みんなよりも色々なことを知っているだけだよ」と。先生っていうのは、ただ、みんなよりも、生きていた時間が長いから、その分、たくさんを知っているだけだ、って、その先生は言いました。なるほどなあ、と思いました。

みんなは、どう思いますか、みんなにも、学校や幼稚園や保育園に行ったら、先生がいます。その先生のことを「ただ先に生まれただけの人」と思うのか、「立派な凄い人」と思うのか。どっちでしょうか。・・・あまりこういうことを教会で教えていると、学校からお叱りを受けるのかも知れませんが・・・。まあ、気楽な気持ちで、「先生」について考えてみてください。みんなにとって「先生」って、立派じゃないとダメですか？ 何でもできる素敵な人じゃないとダメですか？ みんなにとって「先生」って、どういう人ですか？

さっき読んでもらった聖書が伝えてくれる先生ってね、「野の花」なんです。先生は「野の花」。何それ？って思うなら、今日は雨だから、また今度、幼稚園の園庭にある滑り台の下とか、ぶどうの木が生えているところに行ってみると、見つかるはずです。名前も知らない、小さくて、でも、しっかり「私はここにいるよ！」って言っている花が咲いています。気を付けていないと見つからないけど、でも、それが私たちの「先生」なんだよね。

その小さなお花はね、綺麗で、可愛いです。でも、みんなは、お花がお化粧やお色直しをしているところを見たことありますか？ ファンデーション塗らないととか、チークを入れないととか、

ワックス付けないとか。お花がお化粧するみたいに、自分で色や形を変えたところ見たことあります？ 園長先生はないですね。お花は、最初から、綺麗で格好いい色や形で咲いています。きっと神様に「君には、この色が似合うよ」って言われて、「この大きさや、形が君にはぴったりだよ」って言ってもらって、お花は咲いています。

ここに集まっている子どもも大人も同じだと思います。生まれる前から、神様に大切に愛してもらって、みんなにはお花のように、綺麗な色や、可愛い形や、いい匂いや、「わぁ、素敵だね」って言ってもらえる格好良さがあると思います。もちろん、一人一人、違うけどね。でも、一人一人、誰とも同じじゃない、キラキラした素敵どころが、あると思います。

イエス様は、そのことに気がついて欲しくて、「野の花がどのように育つのか、注意して見なさい」って教えてくれました。お花先生を見つけて、よく観察してみなさいってね。小さなお花を大切に咲かせてくださる神様は、きっと、みんなのことも大切に守ってくれます。みんなの楽しくて、ワクワクするような毎日を作ってくれます。みんなの素敵で格好いいところを伸ばしてくれます。花の日礼拝の今日、そんな神様の優しい気持ちを知って、一緒に「ありがとう」のお祈りをしたいと思います。じゃあ、お祈りのご準備をしてください。

神様。今日もたくさんの人と一緒に、こうやって礼拝を捧げることができました。みんなを教会に招いてくださり、ありがとうございます。この花のように、私たちも素敵で格好良いところをたくさんの人に見てもらうことができますように。この花のように、神様に大切に守られていること知って、自信満々で精一杯、遊んで、笑って、1日1日を楽しく元気に過ごすことができますように。そして、隣にいるお友達の素敵どころを見つけて、「すごいね」「可愛いね」「格好良いね」って褒めてあげることができますように。どうか、私たちのことをお守り、お導きください。

このお祈りを大切なイエス様のお名前によって、あなたの御前にお捧げ致します。